



めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■山のめだかは元気
岐阜に行く予定が入った。岐阜といえ
ば蕎麦打ち名人(本人は迷人と称している)
の長谷川政夫さんが入り込んで、数年前に
往路の行程に少く入り込んで、数年前に
開業された蕎麦店「深きふんど」を訪ねて
みた。岐阜市から二〇キロほど東、愛
知県犬山市の北の岐阜県坂祝町(さかほ
ぎ)である。冬季は休んでいて日本ラ
イン下りの真ん中あたりの木曾川岸から
関市方面に少し入った山間の集落のはず
れに店は建っていた。すべて本物にこだ
わる長谷川メダカ御夫妻らしく、柱や造
作材はすべて無垢で、石油系の塗料も
使っていないという店づくりである。三
〇ほどの席は奥さんの手作りのどっしり
とした座卓の席である。車椅子の方もそ
のまま座卓席の人と一緒にいられるよう
に低くした床とそこへの専用の出入口が作
られていた。出される蕎麦も、つなぎを使
わない十割蕎麦を基本としたもので、一
日限定十割という「荒挽き十割蕎麦」を
御馳走になった。「一筋口に入れただけ
甘みを感じる大変おいしい蕎麦であっ
た。すべて契約栽培の自家製粉である。不
作で玄蕎麦が足りない年は、定休日を増や
してしのぐそうである。満席のお客さん
が引けてから、厨房や蕎麦打ち場、製粉
室まで見せてもらって、いろいろのこた
わりの中身を聞くことが出来た。おかれ
ていたノートを見ると、びっくりするほ
どの著名人も訪ねて来ているようである。
岐阜の帰りは、千葉弓江さんのところ
に廻って見た。豊岡村の山奥で、新しく
開店する農家レストランの開店準備に奔
走しているの聞いていたので、激励に行
こうと思ったのである。獅子ヶ鼻公園を
過ぎ鈴木正士さんのお宅の前を通って
さらに山道をかなり登ってもうすぐ天竜
市に入る峠の近くに新しい店があった。
杉皮葺きの門を通って和風建築の店に入
レストロームとはかなり違って、普通の
ニフオームを身に着けた千葉メダカが
忙しそうではあるが落ちた動きで接

客していた。「万瀬ぼうらや」と名付けられ一月五日に開店したこの新しいレスト
ランは、あふれる自然や優れた地場産物
を生かした質の高い交流による地域
活性化を図ろうというものである。太い
梁や棟木には地元材をふんだんに使っ
ていて、食事をしながら、遠州灘まで一
望できるパノラマが楽しめる。季節の創作
料理は少し高くて予約制である。
でなかなか手が出ない。ポリウレム感
たつぷりながら上品な味のケーキが出
てくる。ティータイムセットは予約なしで出
してくれる。既に、マスコミにもたび
たび取り上げられて、休日には女性を中心
にかなり先まで予約で埋まっている。
ある。深きふんど」と万瀬ぼうらや
を訪ねた次の週は、洪川である。伊藤茂
男さんが組合長の「とんきい」などで構
成している「カテキット共和国」が、農
家民泊ツアーを試みるというので、蕎麦
打ち道具を持ってお手伝いに行ってきた。
洪川の奥の集落の空には愛知県という
借りた宿泊体験の中心として、豆腐づく
りや、味噌づくり、ソーセイジ作り体験
などの楽しいメニューが盛りだくさんの
「山の田舎体験ツアー」であった。体験
の他に、伊藤八右さんによる国指定無形
文化財の「ひよんどり」のお囃子の披露
があり、素晴らしい。応援に行きたつ
もりが、お客さんと一緒に豆腐づくりや
田舎料理をすっきり楽しむまでだった。
生憎の冷たい雨の中でも、鈴木計芳さん
をはじめ多くの地元洪川の方々がスタツ
フとして飛び回っていた。七月には、す
ぐ頭の上を流れる天の川を見ることで
ある。夏バケーションを計画しているそ
うである。「カテキット共和国」や洪川地域の
方々の「やらまいか」精神には敬服する
ばかりである。
簡単に山という、御紹介した方々に
は怒られるかもしれないが、正月明けに
たまたま訪ねた山のメダカたちは、とに
かく元気である。豊かな自然の中で、本
物の食材や料理・加工技術、さらに伝統
文化など地域の宝を生み出して磨きなが
ら、他にはない価値を蓄積して夏に向かっ
てます。さあ、皆さんたつぷりの時間

と少しのお金を用意して、元気な山のメ
ダカを訪ねて見ましょう。
(なんでもあり農園「小作人の松」)

■しずおか未来づくりネットワーク
交流会議「合併時代のまちづくり」
静岡県内においても、着々と進む「平
成の大合併」

日頃から、地域・まちづくりの活動を
行っている私たちも、否応なくその荒波
にのめこまれ、いろいろな面で影響が出
てくるのが予想されます。
たとえば、活動の拠点・事務局の問題、
補助金など行政に依存していた部分や、
その活動のあり方や方向性などを含め、
今まで通りというわけには行かなくなり
そうです。
そんなご時世にピツタリの方オラム
が、県内の地域づくり団体の組織である
「未来づくりネットワーク」の主催で開
催されました。

当日(1月21日・金)、会場となった
清水テルサー1Fホールには、県内で
活動する地域づくりの関係者や行政担当
者など約100人が参加しました。
基調講演は未来づくりネットワーク代
表幹事で「掛川・大東・大須賀」合併の
まとめ役をされていた、小櫻義明静
大教授が「静岡県の市町村合併の特徴と
類型・問題点」と題し、県内各地の身近
な合併の例を挙げながらわかりやすく説
明をしてくださいました。

つづいての全体討論会では、アドバイ
ザ(幹事の先生方が登場、花井孝先生(元
めだか)からは、静岡市と合併した旧清
水市民の立場から、日本平動物園の虎の
赤ちゃんの名前を例に挙げ、吸収された
小さな町の悲哀をおもしろおかしい話の
中で表現されました。

そしてその後は、お待ちかね榊原めだ
か&鈴木武史めだかが壇上へ登場(笑)、
事例発表と実際の取り組みを紹介する中
で、新たな地域・まちづくりの方向性や
具体的方法を語り合いました。
榊原めだかからは、引佐町における人
形劇やめだかの学校の取り組みとこれか
ら島亨めだかからは、単独で生き残りをか
ける町の中での活動が紹介され、また藤
枝市の中での活動が紹介され、藤枝市
からも単独となった藤枝市の状況と今後

の展望についての話がありました。
合併する地域では、町が大きくなり平
均化されていく中でどうやって地域個性
を残し、まちでは切詰めた財政の中で
のまちづくりのあり方が今後の課題に
なっていくことでしょう。

合併が他人事ではなく、自分の町また
自分たちの活動、さらに自分自身のこと
として身近に感じられたフオラムでし
た。
自分たちが暮らす町・地域がこの先ど
うようになっていくのか、また自分たち
で何をしたいか、なげればならないのか、
もう一度みんなで考えてみませんか?
(鈴木武史めだか)

■静岡県の市町村合併は「どこどこ」
平成の市町村合併は「二分権改革と基礎
的自治体づくり」とか。まあ、細かいこ
とは別として、どこどこがいつ合併し
て、新市名、人口は?
●静岡市(清水市と15年4月1日合併)
●静岡市・由比町・蒲原町18年3月1
日11706、513人政令市。●浜松
市11浜松市・浜北市・天竜市・春日野
佐久間町・水窪町・龍山村・細江町・三
ヶ日町・引佐町・雄踏町・舞阪町17年
7月1日11786、306人政令市。
●沼津市11沼津市・戸田村17年4月
1日11211、559人特別市。●磐
田市11磐田市・豊田町・福田町・竜洋町
●豊岡村17年4月1日1166、002
人11一般市中部市。●掛川市11掛川市
●大東町・大須賀町17年4月1日11
4、328人11一般市中部市。●島田市
084人11一般市中部市。●袋井市
浅羽町17年4月1日1178、732人
11一般市中部市。●牧之原市11相良町・
榊原町17年10月1日1151、672
人11一般市中部市。●伊豆の国市11韭山
町・大仁町・伊豆長岡町17年4月1日
1150、062人11一般市中部市。●菊
川市11小笠町・菊川町17年1月17日
1147、036人11一般市小都市。●伊
豆市11天城湯ヶ島町・土肥町・修善寺町
●中伊豆町16年4月1日1138、581
人11一般市小都市。●御前崎町11浜岡
59人11一般市小都市。●西伊豆町11西

伊豆町・加茂村17年4月1日11、236人、中規模町村。川根本町17年9月20日119、785人、小規模町村。(※人口は、2000年国勢調査)  
注1資料は、しずおか未来づくりネットワーク交流会で配布された資料より)  
◆あなたの町は、いつごろから新市名になるでしょう。また政令指定都市・中核市・特別市によって行政の事務処理が変わります。事務処理がスピードアップし、サービスが向上すればいいです。最終的には、住民の自立が一番求められています。(バラメダカ)

### 第22回地域づくり国体全国研修 交流奈良大会

地域づくり国体の全国研修交流奈良大会が平成17年2月17、18の両日、奈良県吉備郡大淀町の大淀町文化会館を主会場に「歴史に遊び、未来を語る」をテーマに開催された。今回の大会には静岡県からは鈴木武史メダカが参加する。お土産話に全国の面白い遊び心」が聞けるかも。

### 姫様道中と姫街道アートギャラリー

浜松への合併を目の前にして、各地域の伝統文化等これからどうしていくのか話題になつていくところですが、合併は何かと変わらなく今までよりも一歩前に出て行ける事も合併前に必要と思ひ今回このことを提案し実施します。  
4月2・3日に恒例の、細江町として最後の姫様道中が開かれます。  
同時開催で、合併前にやれることをしようとして今年初めて、「三遠南信中央市場」として物産展を気賀関所西側の田園空間総合案内所前で開催致します。また、両日気賀宿の街中で「姫街道アートギャラリー」を開催、町内外40組程の芸術家が集合します。双方ともに、めだかの皆さんの協力があってこそ実現できるものですね。桜の花と細江町の文化と歴史を散策しながら、すばらしい作品と郷土の物産に出会って頂きたいと思ひます。  
話は変わりますが、「これからは地域のことは地域で決める!それから三位一体

だ!」税財源の地方への委譲と補助金。地方交付税の削減・廃止と言われる中で、これからの町づくり団体はどうなっていくのだろうか心配ではあります。今月開かれておぼさんパワを目的の当りもありません。街中を散策しているのだけれど、きれいな花餅を片手に持っています。その花餅を地元のおぼさん各グループが作って販売して「自分たちのことは自分たちで」と年間の活動費を稼いでいます。足跡の人たちに話を聞きますと全体で1000万くらい売っているんです。言われて見つけました。2月の末には細江町の商工会を連れて行ってまいります。(いにしえの町づくりの会上嶋裕志)

### 花桃の里の「ひな祭り」

引佐町浜川の「てんでんゴいしぶ川」(組合長伊藤茂男メダカ)では、3月20日、4月3日まで、地域のみなさんから提供された雛人形や「雛人形の町」徳島県勝浦町からいただいたものなど、時代的にも珍しい雛人形などを多数展示し、「ひな祭り」を行います。徳島県勝浦町では、雛人形会館を建設して、2月20日から4月3日まで、盛大に雛人形展を行います。平安時代から現代までの数多くの雛人形が迎えてくれるとのこと。てんでんゴいしぶ川の20人ほどの組合員一行さんは、2月19日夜立ちして21日まで、地元の特産「花桃」をお土産に親睦交流に出かけます。てんでんゴいしぶ川のイベント仕掛け人は、伊藤茂男・伊藤八右・鈴木計芳らのメダカ力です。花桃の里「ひなまつり」の問い合わせは、053・545・0542まで。

### 人・ひと・ヒトだより

○和歌山龍神村の眞砂典明メダカ。「小さな点の行動・点から線へ線から面へ」と。長年の林業の振興に貢献したことに、昨年11月旭日雙光章を授与され、龍神村には全国から視察が絶えないと。○浜松市の勾配子メダカ。ミニバラに魅せられてバラ栽培6年目。大変だけれどバラに囲まれて幸せ。

○島田市の池谷俊裕メダカ。昨年10月開幕した「浜名湖花博」。7年間の歳月、多くの人に支えられてのボランティアの會長、役目を果たして、今年は新たなステージの始まり。がんばるメダカ。ばんぶきん出版の社長で、新年早々「遠江の国府の今昔ものがたり。いわたに住みたくなる本」を執筆、出版。是非読んで磐田に住んで!  
○浜北市の奥宮教生メダカ。「一関五感の会」を主宰。毎月1回開催、10数年も。凄いな。「我が家も、日本の未来も、母の慈愛。妻の助力。にかかっている」と。まさに我が家も。  
○森町の村松達雄メダカ。「森のまつり」のフイナーレを飾る「舞児還し」。町の中心の三島神社から町を勇壮に練る。今年神事担当の役。「祭りの心」伝えます。  
○静岡市清水の花井孝メダカ。そこにはいつも富士山がある。清水の未来「あした」の応援者のよう。もうじき清水の時代が来るような気がする。頑なに清水にこだわる。一度も出席しないが、よく「めだた」の理解者。しずおか未来づくりネットワークのアドバイザー。幹事。  
○岐阜県福岡町の早川裕康メダカ。「バラさん」には「ひよっこ」突然に。細江町の久米久乃利メダカが会長を務める遠州夢倶楽部の商品開発の打ち合わせと。共同開発の「どんからしらすみそ」と。くるみみそを土産に。  
○岐阜県美濃加茂市の長谷川政夫メダカ。「バラさん」は「一定休日のお店につかつかと。愛しき奥さんと友人と。ひやーこれまたびっくり。そば好きが高じて脱サラして、岐阜の山の中で「そばの里深萱ふーど」をやっている。めだかのそば好きも訪ねたりして。  
○藤枝市の横山浩史メダカ。「ぎやらり」桐の蔵」を開張してがんばっている。宝くじを入れる桐の箱をいただいた。当たり券に化けるんだって!。年末ジャンボくじ買いつけて未使用のままに「サマージャンボ」に期待して。  
○知立市の中野昌俊メダカ。長野県天龍村に開設した「どんぐり塾」が学校法人に認可されたこと、おめでとう!  
でもこれが大変。お身体はご自愛して...

紙面の都合で今回はこれまで。ごめんね。  
\*\*\*\*\*  
○ご計報です。芥田計治さんが1月3日薬石効なく、逝きました。享年71歳。芥田さんは35回(平成14年3月1日)の入校で、45回の「めだかの学校」には病魔と戦いながら出校でした。46回も開校日の前夜「バラさん」もう行かれそうにない。めだかの便り送らなくとも「いいヨ」何を言っているんですか。便りを出席できなくても送りますヨ。「ありがとう」。その時の電話での会話が最後でした。「ご冥福をお祈りいたします。ご葬儀には、めだかの学校代表として同僚でもあります。斎藤昭メダカに参列していただきました。  
\*\*\*\*\*

紙面の都合で「めだか春秋」は次号へ。

○浜松市の原田憲治メダカ。うわア、子供って可愛いね。もうすぐ3歳の将登ちゃんにヨレヨレ。45回の用務員ごころうさま。  
○豊岡市の市川祐一メダカ。今年もたくさんのおかけ様と一緒に「おいしさ」育てて「お茶飲んで招福。合併しても田舎はそのまま田舎です。  
○浜松市の池田誠二郎メダカ。いかめしい心理療法研究所所長の肩書裏では「古き佳き時代の蓄音機で迎えるSP・LPレコード鑑賞会」。10名以上の鑑賞希望者がいれば開催しますよ。  
○磐田市の小野泰弘メダカ。磐田市議選を迎えて「公明党から3人立候補するのを厳しい選挙になると。弱気に。人物本位で考えれば当選間違いなし。党ガラムミだけではダメよ。  
○御前崎市の中嶋豊メダカ。親から引き継いだ少しばかりの田んぼと畑。子供ら「里山しぜん学校」やろうかと。田んぼ仕事や畑仕事、山仕事。楽しみながら自然に遠慮しながらの暮らしの実践。いいねえ。  
○浜松市の加茂光廣メダカ。1月22日から2月2日までボルネオへ。地震の被害はない地域だが、観光客は激減。そこへひよっこり観光客。大歓迎されたとか。

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

紙面の都合で「めだか春秋」は次号へ。

☆神原淑友メダカ・森町の町長選に立候補、健闘もむなく涙のむ

平成の大合併で、袋井市、浅羽町との合併を進めていた森町。対等合併と言いがらも住民への説明が不十分だったこともあり、合併の是非論をめぐって住民投票が実施された。その結果、住民は合併離脱を選択。町長はその責任をとって辞職することになった。その出直し選挙が1月23日に行なわれた。神原淑友メダカは合併再考派のひとり。思うところあって立候補を決意。対するは辞職した前町長の村松藤雄氏。村松氏には、自公・全町議・地元選出の地元県議までつく。これといった組織もなく、知名度も低い神原淑友陣営。森町の田邊哲メダカ「道義的に救せん」と神原淑友陣営の遊説隊長。大いに盛り上げたが、善戦空しく涙ののんだ。神原淑友メダカ「恥ずかしい」と言うが、恥ずかしいことではない。胸を張って、村松藤雄元メダカと力を合わせて単独の道を選択した森町を盛り上げて欲しい。

☆三遠南信情報誌「アミ」。NPO法人に12000年10月に創刊された三遠南信情報誌「アミ」。季刊誌で2004年12月号で14号になる。14号には事務局の「リンデンバウム」をはじめ多くのメダカ生の顔が見える。

この「アミ」、三遠南信地域の歴史、文化、民族、伝統芸能、観光、特産など地域の課題についての調査、編集、情報発信などを目的に、2005年1月25日「特定非営業活動法人 三遠南信アミ」として申請し、認証される。理事長には愛大教授で三遠南信地域に洞けいの深い藤田佳久さん、副理事長には発行責任者でもある照井易子メダカ、理事には静大教授の小嶋睦雄メダカ、三遠信山岳都市研究会の羽生紀夫さん、メダカ生では松田不秋、栃久保紀子、編集長でもある水島加寿代、神原幸雄ら。執筆陣には松田不秋、加藤修一、溝口久。その他毎号どこかにメダカ生の顔が見える。まさに三遠南信への熱き思いの照井易子メダカを、メダカ生をはじめ多くの人たちが支えている図が見える。三遠南信地域が見える。

定期購読申込み・お問い合わせは浜松市村橋町浜名湖国際頭脳センターNBネット内NPO三遠南信アミ事務局053(484)4133へ。

◆事務局だより

寒中お見舞い申し上げます。新しい年の初まりは如何でしたか？私とは言え、暮れの自治会の忘年会で高級料理を食べて病院へ。年もあけて正月料理もそこそこ、薬のせいもあってか、これまた貯まりに貯まって病院へ。先生「こりや、ダメだ。すぐ腸のレントゲン」。マイツタと思いきや美人の看護師さんがお手伝いしてくれて「いやあ快感！快感！！。今年はいいいこといっぱいありそう。痛さを笑いのオブラートで包んで「善玉菌」増そう！！。第45代校長岡田清多良メダカ年始に曰く「一日一笑、百日百笑、人生百笑」と。そんな矢先「芥田計治さんが亡くなられた」のFAX。12月4日の開校日前日に電話をいただいた。それが最後になるとは...。冥福を祈ります。さて、12月4日の第46回めだかの学校は「オレ流ワタシ流」をテーマに、服部守孝先生「小さい頃から工作が好きで、それが今に...」。大谷香代子先生「今回は間に合わなかったが私のおいしい大根食べて！」。藤野利昭先生「脱サラしてそば店を開店、夢ある思いや今を！」。語る。三人三様、一生懸命話す姿はよかったです。私語飲食すべて禁止の次回3役発表。第47回の校長は萩田博。教頭は金子芳美。用務員は中村浩一、並んでみれば凸凹トリオ。玄米とマラソン、豊橋のにぎやかなおばさん、浜松市の緑化推進人。向こう3ヶ月間よろしくお願いいたします。最後は来年の年男、鈴木武史メダカの音頭で「横須賀祭り手拍子」でしめました。再会を約して...。第47回の「めだかの学校」の授業内容を決めるために、12月22日豊岡村元氣村「味里」で職員会議を開く。萩田校長

を中心に討議する。前回のオレ流ワタシ流を受けて「ハイテク・食テク・老テク」をテーマに決める。新潟中越地震チャリティーコンサートは、時間的にムリ、取り止めることに。12月30日に神原淑友メダカから「四」あり。町長選に立候補する」という。森町は住民投票で袋井市との合併を白紙に戻した町。「こりや、えらいことだ」と、これを機会に3月の授業は「合併」をテーマに変更して「みんなが平成の大合併を考えてみたらどうだろうかと、1月13日再度職員会議を招集して、授業変更を話し合う。いろいろあつたが出席者全員が了承して討議する。結果、「言いたい放題『市町村合併』あなたの本音は？」で決まる。それもパネルディスカッション形式。第一部は、松田不秋メダカをコーディネーターに、合併した地区Ⅱ中嶋豊メダカ、合併しない地区Ⅱ神原淑友メダカ、合併はするが吸収される地区Ⅱ鈴木計芳メダカ、吸収する地区Ⅱ加藤修一メダカをパネリストに一時間。校長訓話、給食20分間などは皆さんで、第二部食事しながらの全員参加の「言いたい放題『市町村合併』あなたの本音は？」。進行役は溝口久メダカ、アシストは金子芳美教頭。第2波、第3波の合併の波も来るだろうと記録を残すことに。担当は水島加寿代メダカと加藤修一メダカ。これだけでは「めだか」らしくないと、「課題提出」...

●全員「必ず」提出しなさい！

校長・萩田博「提出課題」①あなたは合併に関心がありますか？ある・ない。②あなたは合併に賛成ですか、反対ですか？賛成・反対。③合併について50文字以内でひと言。「分らない」「関係ない」もひと言のうちです。「自由」どうぞ。※同封のハガキに、「出欠」の連絡と共に、記入して提出しなさい。提出期限は2月26日(土)必着です。開校日にまとめて配ります。

◆今回もお礼とお詫びを！もはや発行遅れは慢性化。男の更年期がまだ続いているとお赦しを！そんな私を支え、お手伝いいただきました石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、松本芳廣メダカ、上嶋裕志メダカ、本島慎一郎メダカ、溝口久メダカ、鈴木武史メダカ、照井泰子メダカ、エヌビーネットの伊藤多恵子さん、ありがとうございます。感謝です。

■十二期の「めだかの学校」は随時受付しています。第十二期は、平成16年9月1日から平成17年8月31日までです。入学希望の方がいましたら事務局までご連絡ください。本人に申込み書と資料をお送りいたします。継続生で継続手続きがなされていない生徒は自動退学となりました。再入学は随時できますので、「ご連絡ください」。(事務局・神原幸雄メダカ)

◆めだかのたよりの原稿を！情報ください。地域のイベント、あなたの活動を！待ってます。次回発行日は5月1日です。1月20日までに郵便かFAXで、事務局(FAX:053-545-0381)、メールの方は、照井泰子あてEメール/ten@ahnet.co.jp メール送信の方は、割付の関係もありますので、事務局に「一報を！」よろしくお願います。

めだかの学校事務局 〒431-2531 静岡県引佐郡引佐町東久留女木472-111

「リンデンバウム」内 神原幸雄 ※学舎「みどりの郷」は何もありません。連絡・お問い合わせは「事務局」まで。